



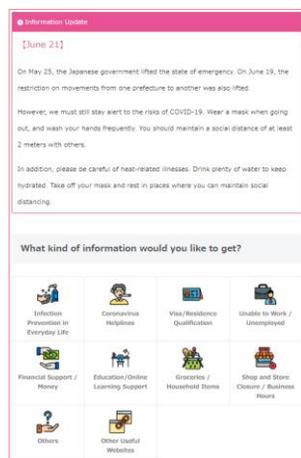
新型コロナウイルス感染症（COVID-19）に関する情報をウェブサイト・SNSで多言語発信

主に首都圏に暮らす外国人の方々に向けて、ウイルスから身を守り、安全・安心な生活を続けるために必要な情報を掲載

東京外国語大学の在學生と卒業生を中心としたボランティア団体「COVID-19 多言語支援プロジェクト」（代表：石井 暢）は、ウェブサイト「COVID-19 多言語情報ポータル」を立ち上げ、現在15言語で情報発信を行っています。

ウェブサイトは、やさしい日本語、英語、簡体字、繁体字、韓国語、ドイツ語、フランス語、スペイン語、イベリアポルトガル語、ブラジルポルトガル語、アラビア語、ウルドゥー語、ベトナム語、タガログ語、インドネシア語に対応。感染予防策や感染が疑われる時の相談方法だけでなく、特別定額給付金や住宅確保給付金などの経済支援、在留資格の取扱い、労働に関する支援、DV被害や差別に遭った人の相談窓口など、幅広い情報を掲載しています。SNSでは更新情報を毎日多言語で配信しています。また自治体や地域の国際交流団体、外国人コミュニティにもウェブサイトの利用を呼びかけ、ローカルなネットワークを通じた情報拡散を図っています。ウェブサイトを利用した外国人の方々からは「このパンデミックの中ストレスで一人取り残されたように感じていたが、ウェブサイトで情報を手に入れられて安心した」といった声が届いています。

言語の壁や文化的背景の違いにより情報が届きにくい外国人の方々は、感染が疑われる時にどう行動すべきかや、給付金の申請の仕方が分からないといった困難に直面しています。在留外国人の数は2019年末に290万人を超え、建設業や農業、サービス業などの基幹産業で多くの外国人が働いています。私たちは多言語情報発信の活動を通じて、共に日本を形づくる外国人の方々、この危機においても安全・安心な生活を続けられるようにすることを目指しています。



今後も日本で暮らす外国人の数は増え続け、言語・文化的背景が多様さを増すとともにきめ細やかなサポートが求められます。ポストコロナにおける多文化共生に向けてどんな社会が望ましいか、行政と市民双方からのイニシアティブが必要です。私たちは、メディア出演やnote記事の配信、講演の実施、提言の作成などを通じて、非常時における多言語情報発信の重要性とそのあり方について世に問いかけ、議論のきっかけを作ることを目指しています。

※本プロジェクトの新規の情報発信・更新は7月末を目処に一度終了する予定です。

COVID-19 多言語情報ポータル
<https://covid19-tagengo.com/>

COVID-19 多言語支援プロジェクト 広報担当 板場
covid19.multilingual.jp@gmail.com



Twitter : [@covid19_jp_info](https://twitter.com/covid19_jp_info)
Facebook : [@covid19.jp.info](https://www.facebook.com/covid19.jp.info)
note : note.com/covid_m_lingual

2020年6月26日更新